

## 4 再生困難農地の有効活用（検討内容例）

再生困難農地の非農地化は、その多くが近年の農地法の改正に基づいて進められてきたことから、まだ具体的な活用事例は多くはありませんが、今後、加速的に非農地判断される農地が各地で増加することが予想されます。

つきましては、これまで農地として利用されてきた土地の農外利用の事例や各地でのアイデアを紹介します。

活用方法（実際の事例、各地で出されたアイデア）

### ■桜の木を植樹

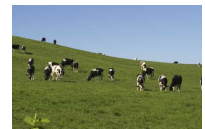
管理が滞りがちな土地に桜を植樹することで、景観に気を配る心理が働き、適切な管理が期待されるだけでなく、将来、地域の名所へと発展する可能性も秘めている。



### ■動物を放牧

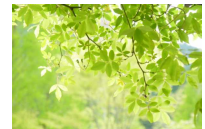
豚の放牧は、豚が草だけでなく木の根まで掘り起こして食べることから、再生困難農地から農地として利用できる状態に回復する可能性もある。

イノシシなどジビエに活用できる動物の飼育や地域特産化を目指してエミューなど珍しい動物を飼育するなど、様々な工夫の組み合わせが考えられる。動物を飼育することで鳥獣害を軽減する緩衝地帯としての効果も期待できる。



### ■憩いの場

雑草等は除去するが立木をそのまま生かすことで、自然豊かな公園や散策の場として利用できる。草花などを植えることで景観形成にも繋がる。



### ■ドッグラン

下草を除去し地域住民のドッグラン等に利用する。自由に出入りできるドッグランに適した場所は愛犬家に喜ばれる。



### ■健康増進の場

サイクリングコースや散策コースを整備し、地域住民の健康増進に役立てる。コース沿いの各地に健康に良いとされる薬草や山菜などの案内版を掲げるのも面白い。



### ■民宿や農家レストラン

自然豊かな農村体験を求め田舎を旅先に選択する都市住民は少なくない。人里から離れ、立木などを景観に活かした店舗は自然に溶け込んだ雰囲気喜ばれる。古民家を活かす方法も考えられる。



■バーベキュー・キャンプ場

下草を刈り取りバーベキューやキャンプ場として利用する。オリエンテーリングの場としての利用など学校教育や公民館事業等との連携も考えられる。



■クレー射撃、ハンター養成の場

多少の整備は必要なものの、クレー射撃や猟銃の練習場など、人里離れた土地ならではの活用方法が考えられる。



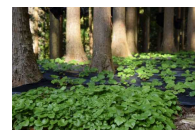
■アスレチック・サバイバルゲーム場

山間地の立木や地形を活かし、アスレチック施設やサバイバルゲームの場所として活用する。



■荒廃農地に適した作物を栽培

葉ワサビやイチジクなど日影での栽培が可能な作物を導入する。水源に近い奥地の場合は、水のきれいな所に育つワサビやジュンサイなども考えられる。



また、数年利用されていない農地は有機農業を始めるにも適する。

■地域住民が自由に利用

地域住民が立ち入り自由に利用できる空間として提供する。